



【2014年度第3回協議会】

- 日時:
 - 平成26年08月29日(金曜日) 10:00～17:00 (受付10:00～, 12:30～)
- 場所:
 - 産業技術総合研究所臨海副都心センター
 - 本館4階 第一会議室
- 内容:
 - 10:30-12:00 DhaibaWorksユーザ講習会3
※法人会員1・個人会員・特別会員のみ
多田 充徳 (デジタルヒューマン工学研究センター)
「Python基礎: Pythonスクリプトを用いたDhaibaWorksの機能拡張」
※ご参加の際にはご自身のPCをご持参ください。
 - 13:00-14:00 招待講演
池田 篤俊 助教 (奈良先端科学技術大学院大学)
「指先接触面画像を用いた人の触覚情報計測とモデル化」
 - 14:00-15:00 招待講演
栗田 雄一 准教授 (広島大学)
「主観的な感覚はデザインできるか ～運動・知覚のヒューマンモデリングと工学的応用～」
 - 15:20-15:45 個人会員研究発表
上田 悦子 先生 (奈良工業高等専門学校)
「人間動作の『優美さ』計測」
 - 15:45-16:10 学会報告
遠藤 維 (デジタルヒューマン工学研究センター)
Applied Human Factors and Ergonomics (Poland)
 - 16:10-17:10 ディスカッション
パネリスト:栗田 雄一 准教授 (広島大学)
池田 篤俊 助教 (奈良先端科学技術大学院大学)
遠藤 維 (デジタルヒューマン工学研究センター) (ほか)



講演の概要

池田 篤俊 助教（奈良先端科学技術大学院大学）

<タイトル>: 「指先接触面画像を用いた人の触覚情報計測とモデル化」

<概要>: 人の器用な物体操作には、指先などから得られる触覚情報のフィードバックが重要であることが知られています。人が受けている物理的な刺激を計測するために様々なセンサが開発されており、それらのデータに基づいた触覚モデルが提案されています。しかし、実際の物体操作やその動作の学習過程において触覚情報がどのように利用されているのかについては、未解明な部分が多く残っています。我々の研究室では、物体把持や操作において物体が滑り始める時の初期滑りに着目し、初期滑りの計測とモデル化について研究しています。本発表では、指先接触面画像を用いた初期滑り計測手法について説明し、初期滑りと把持力制御の関係について説明します。また、自然な指先接触状態を保ったまま指先で発生する初期滑りを計測するための手法を紹介します。

栗田 雄一 准教授（広島大学）

<タイトル>: 「主観的な感覚はデザインできるか ～運動・知覚のヒューマンモデリングと工学的応用～」

<概要>: ものづくりにおいては、計測可能な物理スペックや計算可能な生産コストに評価の主軸が置かれがちだが、実際に触ったり操作したりしたときに感じる主観的な感性的価値もまた、その製品を選択する上でユーザにとってきわめて重要な評価軸である。ここで運動特性と知覚特性の両者のヒューマンモデルが作れば、ユーザが最終的に感じる主観的な感覚をデザインすることも可能ではないだろうか。本講演では、この仮説に基づき、人の運動感覚機能をモデル化・可視化し、それを工学的応用に結びつけた例について紹介する。

上田 悦子 先生（奈良工業高等専門学校）

<タイトル>: 「人間動作の『優美さ』計測」

<概要>: 舞踊等の動作は柔らかで曲線的な動きにより優美な印象を人に与える。これまでスポーツ運動学の分野では、「動作の優美さ」が定性的に定義づけられてきたが、まだ定量化するまでには至っていない。本研究では、定性的な優美さ定義のもと、人間動作の優美さを定量化し、そのモデル化を目指している。古典舞踊動作やホテルマンのサービング動作から、優美さ特徴を抽出し解析する試みに付いて報告する。